

多摩森林科学園

多摩森林科学園は「都市近郊林が有する多面的機能を発揮させるための管理・利用技術に関する研究」及び「サクラの系統保存と利用に関する研究」を柱として取り組んでいます。また、森林総合研究所の研究成果を一般の方々に広く広報・普及する活動も担っています。今回は最近の動向について紹介します。

1. 近年、都市近郊林は身近な自然体験の場として捉えられ、市民による都市近郊林での活動が増えています。しかし、市民にとって都市近郊林に生息する生物相を適正に保全することは難しいことです。そこで、市民参加による生物相の保全に向けた都市近郊林管理作業に関する手引書を作成しました。

2. 森林の教育的利用に関する研究として、森林教育の内容を俯瞰的に捉え、学校教育に組み込める教育プログラムの開発に取り組んでいます。

3. サクラには多くの栽培品種がありますが、しばしば、間違った品種名が付いており、混乱が生じています。そこで、花の形態解析とDNA解析を基に、サクラの栽培品種を正確に識別する方法を開発しました。

4. 森の科学館、樹木園及びサクラ保存林において、通年で一般公開を行っています。森の科学館では研究成果を解説したパネルや成果物の展示を行っています。現在は夏・秋の企画展として「くらしに身近な木質バイオマス」を開催しています。また、「森林講座」、「森林教室」、「園内ガイドツアー」等を行って、一般の方々に分かりやすく研究成果を紹介しています。なお、イベントの参加方法については、ホームページをご覧ください（<http://www.ffpri.affrc.go.jp/tmk/event/index.html>）。



これまで異なるとされていたが、形態とDNA解析により、ひとつの栽培品種「江戸」と判断された。(A: 安行の江戸、B: 神代の八重紅虎の尾、C: 白山大手毬、D: 京都の糸括)
(<http://www.ffpri.affrc.go.jp/pubs/kikan/kikan-28.html>)



作成した手引書
(<http://www.ffpri.affrc.go.jp/tmk/introduction/kankoubutu.html>)



森の科学館・展示風景



小、中、高校教員を対象とした教員研修講義風景